

# 音楽状況における幼児集団活動\*

——その特性および人とのかかわりの  
発展についての実践と考察——

赤井美智子\*\*・金勝 裕子\*\*・清水 玲子\*\*

(1992年5月13日受理)

## <はじめに>

この研究は、本学幼児教育学科卒業生を対象とする現職研修会のメンバーである三人の筆者が、1990年度にその会において設定した共同研究活動を基にまとめられている。

保育者養成活動において、それぞれ異なる専門分野(心理分野、音楽分野)をになう者同志が、共通のテーマを設定し、共同研究することが、よりよい保育者の養成、現場の保育実践の発展、そして筆者それぞれの研究の発展につながることを願って活動が続けてきたが、ここにその活動の成果の一部を報告することにした。

## <目 的>

今日、日常生活の中で、人は誰でも多様な音楽とのかかわりを持って生活している。保育においては、幼児と音楽とのかかわりは、とりわけ深く、広いといえよう。

本研究では、音楽に内在する人と人のかかわりを促進する側面の働きに焦点を置き、関係学的視点からその特性および可能性、保育者のかかわり方について実践と対応させつつ考察することを目的とする。

ここでは、音楽の“もの(物)”としての特性が明確化されながら、音楽にかかわる人の自己関係も対人関係も相即的に変化発展する状況を「音楽状況」と定義して、考察を進めることにする。

## <方 法>

次のような実践研究の場に、保育実践者としてかかわり、その実践活動を分析・考察する実践研究法。

1. 本学附属幼稚園
2. 本学幼児教育学科卒業生を対象とする現職研修会(こぶた会)

\* Children's Group Activities in Music Situation  
—Practice and Consideration about its Characteristics and the Development of Human Relation

\*\* Michiko AKAI, Hiroko KANEKATSU, Reiko SHIMIZU 幼児教育学科

## 3. 新座市福祉事務所主催の3歳児母子小集団活動 (でんでん虫の家)

## <考 察>

### [1] 人とかかわりの発展の道すじ

幼児期の発達の特徴は、「相互的・接在的なかかわり方がおとなとの関係で成立し、これを発展的基盤として、自己接在(自覚的あり方)、物と接在(物を生かし、創造的につくること)、こどもと接在(物の共有、共同、役割遊びなど)が可能になる<sup>①</sup>」方向への変化としてとらえられる。

幼児のこのような幼児同志の相互的やりとりができるようになる方向への変化(発達)は、物や人や自己との関係が接在共存する集団状況において、自発的にさまざまな役割をになう体験を積み重ね、かかわり方の可能性を広げ、充実されていくことによりもたらされると考える。

幼い子どもの発達を促す大人の役割は、子どもの発達段階によって異なり、乳児期の自分の思いのままに動く子どもに対しては、その子どもの自発性、内的発展を助成する内接的役割をになうことが期待される。そして、幼児期の子ども(幼児)には、子どもの家庭外の世界へ向っての歩きだし、新しい物(自然物、玩具、道具、社会的ルール等)や人(子ども集団)に出会うことを促進する媒介的役割を大人が果た必要がある。

幼児は幼稚園や保育園において子ども集団と出会い、共に活動する生活の中で、保育者の援助に支えられながら、多くの人や物とかかわり、次第に、自己と人と物との相互的なかかわり方(接在性)を形成していく。

この幼児が子ども集団と出会い、接在性を形成していくプロセスにおいて、保育者という人の存在が必要とされるのと同じように、幼児の発達に大きな影響力を有する“もの”の一つに音楽がある。音楽状況を保育者がその特性をよく理解して意図的に適切に、設定することにより、より楽しく、より自発的な活動を展開するなかで、音楽状況と保育者の媒介機能は拡大し、より効果的に幼児期の子どもの人と人とかかわりの充実発展を促

進できると考える。

## 〔2〕 人とかかわりを促進する音楽の機能的特性

保育における、幼児と音楽とかかわり場面を収集し、分析することにより、幼児と音楽とかかわりの深さと広さを改めて再確認すると共に、音楽の人とかかわりの発展を促進するさまざまな機能的特性は、次のように分類して把握することができた。

### A. 共通基盤性

同じ音楽が保育室にいる幼児たちに聞こえるということは、（意図的に聞く、聞かないにかかわらず）音楽による共通基盤的な体験の成立を意味していると考えられる。

たとえば、保育室のピアノの上に置いたカセット、テープから軽快な音楽が流れ、数人の幼児が保育者と一緒に音楽にのって踊り、他の数人の幼児はそれを見ながら、ブロックで遊び、ある幼児は絵本を熱心に読んでいる場面を考えてみよう。ここでは、それぞれ異なる活動をしている幼児（集団）と幼児同志とかかわりは、対人関係外接、外在的なかわり方中心の集団状況にあるといえる。このような状況であっても、同じ音楽に包まれたり、ひたったりして、それぞれの異なる活動が展開しながら幼児同志が自然につながりうる、共通基盤が音楽により提供されているのである。

### B. 感覚運動レベルの共感、一体感の促進性

快いわらべ歌の繰り返しのメロディー、思わず手をつないで踊りだしたくなるリズム、いつのまにか皆がそろって足を踏み鳴らして楽しみだすテンポなどのいろいろな音楽の要素によって成り立つ音楽状況では、幼児たちは音楽に共鳴し合い、共通な感覚情緒を共有し、集団への一体感、人と共にあることの楽しさにひたる（集団状況へ内在的にかかわる）体験をもたらす。

一般に、子どもの身体は、同じリズム、テンポ、同じような呼吸で弾み、共鳴、共振するような、子ども時代にも最も強く現れる特性を持っている。

乳児保育の現場では、言語によるコミュニケーションが成立するずっと以前から、乳児集団において同じリズム、同じ動きで共鳴し、共感し合う音楽状況の喜びを全身で表現する事例に出合うことは、きわめて要易なことである。

幼稚園、保育園の音楽状況は、幼児集団における共通な感覚、情緒の成立を促進しやすく、その過程においては、人と人との内在的、内接的にかかわりによる、言語の

やりとり以前の親密化をもたらし、個々の幼児の自発性、自己表現性をも高め合うことが期待できる。

音楽状況において、そこに参加する幼児に成立する感覚、情緒は音楽という物によって変化するのみでなく、その音楽という物を幼児の自己がどうとり入れ、かかわっているかによって変化する。

音楽へのかかわり方により、それに対応して自己に成立しやすい感覚・情緒や対人認識の典型は次のようにとらえられる。

#### 1. 音楽に自己が内在的にかかわる場合

どっぷりつかると、うっとり、音楽にひたる。  
快く、まわりの人や物に親近感を持つ。

#### 2. 音楽に自己が内接的にかかわる場合

楽しい、快い感覚・情緒が高まる。自然に頭をふったり、足や指を動かしてリズムを取る。  
人と共に聞いて、同じように身体を動かすことを喜びつつ、共感性が高まる。

#### 3. 音楽と自己が接在的にかかわる場合

音楽を聞きながら、メロディーやリズムに身体を合わせて色々に動かし、楽器をメロディー、リズムにあわせてならしたくなる。人とやりとりをしたくなり、人を誘い、人にはたらしきかける。（音楽に合わせた身体表現のアイデアを人に伝える、一緒にやる。新しいメロディーや合間の伴奏や合いの手を加えて聞く）

#### 4. 音楽に自己が外接的にかかわる場合

音楽をぼんやり聞く、聞きながら、他の活動をする。  
人は離れている存在として意識される。

#### 5. 音楽と自己が外在的にかかわる場合

音楽が意識されず、聞こえない、あるいは音楽が不快、異様な物としてとらえられ、音楽とかかわりをなくそうとする。  
音楽と全く関係ない活動に没頭し、まわりの人とかかわりは無視する。

### C. 集団状況の構造化促進性

音楽は、人とかかわりにおいて時間性（始めと終りが明確であり、一定のテンポがある）や、運動性（音楽を聴く人に身心の躍動や鎮静を誘う）を発揮し、アクセント、リズム、メロディー、ハーモニーなどの音楽独自の要素がさまざまに組み合わせられて、集団状況へはたら






きかけ、その構造化を促進するはたらきをする。

日々の保育でも、保育者のピアノ演奏が一つの活動の場面設定をするはたらきをしたり、保育者と幼児が共に歌いながら手遊びをすることにより、集団凝集からある活動への焦点移動がスムーズにもたらされるような場面は日常的に展開しており、これらは音楽が集団状況の構造化を促進しているところの身近な例といえよう。

このように、音楽による集団凝集や焦点化、場面設定、場面転換が適切になされるならば、人々と人とのつながりを強め、人の存在、集団の枠に気づき、楽しみながら集団の枠に即して集団で共にふるまう体験をふやすような力働的な集団活動の構造化をもたらしることが可能となる。

音楽の5つの要素と音楽状況の関係は表①のように整理されている。②

表①

|                  | アクセント   | メロディー   | ハーモニー   | リズム   | テンポ   |
|------------------|---|---|---|---|---|
| 五つの要素の音楽状況への位置づけ |  |  |  |  |  |
|                  | 内 在   | 内 接   | 接 在   | 外 接   | 外 在   |
|                  | 強 調 性   | 移 行 性   | 重 層 性   | 力 動 性   | 不 変 性   |
|                  | 音楽状況そのものを内在化・強化する。焦点化する。  | 音楽状況の内容的移行の内在的發展をもたらし。  | 重なり部分が次の音楽状況の發展をもたらし。   | 音楽状況の自在な時間的構造化をもたらし。  | 物的規定性(ex,速度記号)が明確である。   |

表①に示されているような音楽の5つの要素の音楽状況における機能特性を5つのかかわり方に対応させてとらえる観点を活用することにより、より効果的に音楽による集団状況の構造化をもたらしことができよう。

#### D. 共通の役割課題を媒介とする初期的な接在のかかわり方の促進性

保育においては、音楽状況の持つ物的規定性(テンポ、リズムに合わせて動く)を活かし、そこにふるまう方の役割課題(《例》 集団の中の誰かとペアを組んで、相手の動きをまねしてみる、音楽に合わせて歌いつつ、自分なりの自由な身体表現をする等)を保育者が設定し、集団全体で音楽状況を楽しむ機会が多い。保育者は第一に幼児の表現を伸すことを、このような活動のねらいとすることが多いと思われるが、それは、単純なレベルであっても音楽的なリズムカルな応答関係体験を楽しむことによって相互的な人のかかわり(接在性)の基礎となる活動でもあることを忘れてはならない。

音楽状況という共通基盤の中で、幼児の人とのかかわり方の発達変化は音楽につつまれ、人と共に在ること、人と同じにふるまうことを楽しむことから、人とやりと

りしながら自分らしさを発揮しつつはたらきかけ合う接在的な人とかかわり方を楽しめるようになる方向への段階的变化として次のように整理できる。

〔1段階〕＜音楽で人とつながり、音楽と共に包まれる＞

〔2段階〕＜音楽で人と新しく出会い、人を意識する＞

〔3段階〕＜音楽で人とのやりとりを楽しむ＞

#### E. 多様な活動を包含し、統合する舞台性

先に述べたような、4つの特性を総合的に有する音楽状況は、保育におけるさまざまな幼児の活動(身体を動かす運動、身体表現、言語を伴う劇的表現、ルールのあるゲーム的活動等)のそれぞれの特色ある活動の展開を補助促進すると共に、それらを包含し、統合的な構造化をもたらし受け皿としての舞台的役割を果たしえる。

そこでは音楽が共通基盤としての舞台になり、多様な活動が統合されつつ、その活動に参加する幼児の対物関係、対自己関係、対人関係を相互媒介的に発展させる体験を積むことが期待される。

#### 〔3〕 音楽状況における人とかかわり方の段階

〔2〕で述べられた5つの音楽の機能的特性を生かし、具体的に実践した場合、人とかかわり方に3つの段階があると、考えられる。

##### 1段階 音楽でつながり包まれる

対人関係構造は、外接外在のかかわり方を中心とする。

状況には、主として内在的にかかわる。

同じ音楽が聞こえる音楽状況において、一人一人が自己の身体的感覚を楽しみ、共通な感覚や、共通な情緒中心の相互に共振するようなつながり方である。つまり、快い音楽に包まれ、自然に身体を動かしたりする。また自分の活動は、そのまま続けているが、音楽と一緒に聞いているという状態が、一段階である。

##### 2段階 音楽で人と新しく出会う

対人関係構造は、内接的・外接的のかかわり方を中心とする。

状況には、内接的にかかわり場面に応じて変化し、人の存在を意識して、音楽状況の中での人との出会いを楽しみ、共存し、同じにふるまうことを楽しむ。つまり、人に注目し、人と同じことをして楽し

使用曲 「お誕生月なかま」 (譜例1)

## 選曲の理由

①誕生月の歌のため、全員が参加できる。

②曲の長さが、適当で覚えやすい。

③曲の後半の⑩のメロディー「ラララ～」の部分が  
全員で歌いやすいメロディーである。

④詞が替えやすく、色々なバリエーションが考えられる。

以上の4つの理由から選択する。

譜例 1

お誕生目なかま

作詞／作曲 奥野正泰

作詞/作曲 奥野正彦

**A**

いちが つうまれの おともだち

**B**

みんな ててきて おどろう よ ララ

ランラン ラン ラン ラン ラン ラン ラン

ラン ラ ラ ラ ラ ラ ラン ララン ラン ラン

- ① 1月生まれのお友だち  
みんな出てきておどろうよ  
※  
ララ ラン ラン ラン ラン  
ララ ラン ラン ラン ラン  
※ ラン ララ ララ ララ  
ラン ララ ラン ラン
- ② 2月生まれのお友だち  
みんな出てきておどろうよ  
※  
:(以下12月までくり返す)  
③ たのしいすてきなお友だち  
みんな出てきておどろうよ  
※

次に、人とのかかわりを促進する5つの音楽的特性を生かし、三段階の人とのかかわり方の内面的特性を、実践した具体例に対応させ、表にまとめてみた。

対象は、2才児後半から5才児までとし、卒業生対象の現職研究会「こぶた会」でのフィードバックと、附属幼稚園による実践結果を考察し、保育者とのかわり方や特徴などを段階別にまとめ（表1）また、三段階と音楽的特性・役割のとり方の対応関係は、（表2）にまとめた。

＜表1＞ 音楽状況における保育実践と、人とのかかわり方の発展段階

使用曲「お誕生月なかま」(譜例1)

|                | 具体的実践例 内容  | 保育者のかかわり方   | 特 徴   |
|----------------|--|---|---|
| 一段階（音楽でつなげられる） | <p>○共通—それぞれの保育者がうたう、歌を聞く。</p>  | <p>○楽しい雰囲気伝えるよう、うたいかける。</p>   | <p>○初めて聞く歌に、興味を持つ。</p>  |
|                | <p>○3才—月別の認識がまだないため、誕生月に関係なく、替え歌で、④のメロディーを ♪「～のすきなおともだち、みんなできて踊ろうよ。」とうたって、楽しむ。自分の好きなものが歌の中に出てくると、立ち上がり踊りの輪に入ったり、個々に好きなところを、走ったりする。</p> | <p>○「～のすきな」の～の部分のバリエーションを、食物・物（玩具・道具など）・キャラクター（ウルトラマン・アンパンマンなど）として、全員の好きなものを取り上げて歌に入れ、幼児に働きかける。</p> | <p>○3、4才とも、自分の誕生月の正確な認識はないが、誕生日とか、月の喜びや、めでたさの高揚した雰囲気の状況は促えられ、共に楽しむことができる。</p> |
|                | <p>○4才・5才—3才と同じようにして、うたい、リズムに合わせてスキップや、ギャロップをして楽しんでいる。</p>   | <p>○幼児の方から、好きなものを積極的にあげさせ、替え歌と一緒に楽しむ。</p>   | <p>○自分の好きなものの歌でない時も、歌詞に限定されず音楽を聞きながら、皆で走り回り、音楽状況を全身を動かす。</p>                  |



|   |  |   |  |
|---|--|---|--|
|   |  |   | て楽しむ。  |
| 二<br>段<br>階<br><br>(音楽で人と<br>新しく出会う)    | <p>○共通⑩の部分 ♪「ラララ～」からのところを歌って楽しむ。</p> <p>○3オー歌をうたい、友達と一緒に手をつないだり、走り回ったりする。</p>  | <p>○歌詞のわからない子も、「ラララ～」の部分だけは、うたえるよう見守。</p> <p>○手をつながない幼児、見ているだけの幼児には、どこかで参加できるかわり方の幅が広がるよう呼びかける。</p>                 | <p>○単純なくり返しのため、みんなで楽しめる。</p> <p>○先生のうたいかけに誘れ、自然に全員が曲の間中、走り回って音楽状況を、皆で一緒に共有して楽しむ。</p>       |
|   | <p>○4オー1クラスを6つのグループに分け、それぞれ違う動物の名前をつけ、④のメロディーで、♪「～グループのおともだち、みんな出てきて踊ろうよ。」(例：くまさんのグループのおともだち～・りすさんグループのおともだち～)と替え歌にし、幼児自身で選択し、スキップやギャロップで前に出てくる。</p>   | <p>○グループ別や、身近な枠組でバリエーションを作り、「～食べてきた(朝食のおかずなど)おともだち～」などと、それに該当する幼児が、前に出てこれるように配慮する。</p>                              | <p>○自分の当てはまるものの歌いかけに対し、スキップなどをして、皆の前に出て行くことを楽しみ、皆に注目される。演奏グループと観劇グループの役割分化。</p>            |
|   | <p>○5オー歌のとりの歌詞で月別に遊ぶ。その他、④のメロディーで「大きくなったら～になりたい。」(例：大きくなったらおまわりさんになりたいおともだち～・～おもち屋さんになりたい～・～お花屋さんになりたい～など)と歌詞を替え、「大人になったら～」のところの同じメロディー④を、3～4回繰り返し、3～4人の幼児が自分一人でうたい、スキップなどをして皆の前に出ていく。そして、3～4人で手をつないで⑥のメロディー「ラララ～」から一緒に踊る。</p> | <p>○お誕生会などの時に、皆でうたってみる。</p> <p>○「大きくなったら～になりたい。」と一人ずつ皆の前で言いやすいような環境をつくる。</p> <p>○幼児の将来への願いのひとつひとつを、大切に受けとめ、うたう。</p> | <p>○自発的に自分のなりたいものを皆の前で発表し、人の前に出て行くことで、自己が明確化し、自分らしさを発揮し、動となり(自己接在)、一人一人注目される。</p>          |
| 三<br>段<br>階<br><br>(音楽で人との<br>やりとりを楽しむ) | <p>○3オー歌をみんなでうたいながら、特に⑥のメロディーの部分は、先生の真似をしてリズムに合わせ、手拍子や体のどこかを叩くなどの動きを楽しむ。</p>   | <p>○皆が楽しめるよう、単純な繰り返しを入れたり、歌いやすい、動きやすいテンポにすることに気をつける。</p>  | <p>○先生の真似をすることで、幼児同志が同じ動きをし、先生も幼児の動きを取り入れたりして、やりとりを楽しむ。</p>                                |
|   | <p>○4オー先生の動きを真似することから発展し、バリエーションでアイデアを出した幼児を真似して、同じ動きを楽しむ。</p>   | <p>○幼児たちの間でまねっこをしやすいよう、先生役の幼児が、アイデアを出しやすいように働きかける。</p>  | <p>○幼児が先生役になり、身体の動きを創作し、真似されることを楽しんだり、真似することを楽しみながら、幼児同志が、注目しあい親密になる。</p>                  |
|   | <p>○5オー誕生月別の幼児たちのグループ内で、ポーズや動きをどのようにするか相談し、表現を工夫して踊ったり、うたったりする。</p> <p>○人前に出て、踊る役割を手拍子しながら見る役割が明確に分化する。</p>  | <p>○グループ内で、アイデアがでやすいような雰囲気をつくる。</p> <p>○人前に出たがらない幼児は、手拍子をして参加する見る側に誘うよう働きかける。</p>                                   | <p>○みんなで、相談することでやりとりを楽しみ、自分の考えや、ともだちの考えを聞くことで、アイデアがふえる。</p> <p>○観客として、また演じ手としての役割を楽しむ。</p> |

＜表2＞ 三段階と 音楽的特性・役割のとり方の 対応関係

| 段階  | 音楽的特性   | 役割のとり方   |
|-----|---|--|
| 一段階 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○共通基盤性</li> <li>○感覚運動レベルの、共感と一体感の促進性</li> </ul>  | <div> <div>自</div> <div>心</div> <div>人</div> <div>場</div> <div>社</div> </div> <div>己</div> <div>理</div> <div>間</div> <div>面</div> <div>会</div> |
| 二段階 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○共通基盤性</li> <li>○共感と一体感の促進性</li> <li>○集団状況の構造化促進性</li> </ul>   | <div> <div>身</div> <div>行</div> <div>関</div> <div>構</div> <div>地</div> </div> <div>体</div> <div>為</div> <div>係</div> <div>成</div> <div>位</div> |
| 三段階 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○共通基盤性</li> <li>○共感と一体感の促進性</li> <li>○集団状況の構造化促進性</li> <li>○接在的かかわりの促進性</li> <li>○統合する舞台性</li> </ul> | <div> <div>的</div> <div>的</div> <div>的</div> <div>的</div> <div>的</div> </div>  |

#### 役割のとり方について

役割のとり方は、子供の状況へのかかわり方において、内容的に、次のように5つに分類する。

1. 自己身体的……共に同じ空間の空気を呼吸したり、自己の身体がそこに存在したり、機能していたりすることにより、身体でその状況にかかわっているような役割行為
2. 心理行為的……笑ったり、泣いたり、感じたり、手をたたいたりして、自己の心の動きを表出する役割行為
3. 人間関係の……人とのやりとり、ことばの受け答え一緒に遊ぶなどの人とのかかわりが展開する役割行為
4. 場面構成的……空間や物の配置構成と、場面や物のみたてを設定していく役割行為
5. 社会地位的……ごっこの中で社会的に構成されている役割を担ったり、社会のきまり、遊びでのルールを担う役割行為

#### 〔4〕音楽状況における保育実践と、人とのかかわり方の発展

次に、人とのかかわり方の発展する活動場面を、本学附属幼稚園での保育実践（実践例A）と「でんでん虫の

家」での臨床例（実践例B）の中からとりあげ、音楽的特性がどのように生かしているか、また、対人関係の発展内容はどのようにとらえられるかを実践例に対応させ、表にまとめてみた。

#### 〔実践例 A〕

使用曲 「すきですきでスキップ」（譜例2）

選曲の理由

- ①幼児の好きな動物が、歌詞にでてくる。
- ②歌詞からイメージが湧き、幼児も理解しやすい。
- ③曲の後半④「ラララ～」の部分が、スキップやギャロップで、体を動かしたくなるようなリズムである。
- ④替え歌にしやすく、色々なバリエーションを楽しめる。

以上の4つの理由から、選択する。

対象は、本学附属幼稚園 4才児と5才児とし、保育者のかかわり方や活動の特色などを考察し、表にまとめる。

#### 譜例2

##### すきですきでスキップ

東 龍男 作詞  
山本直純 作曲

Allegro con brio

2nd timeより  
すきですきでスキップ すきですきでスキップ

1. かえるさんはあめが  
2. おさるさんはバナナが  
3. ひろみちゃんはいすかきーが

4. きつねさんはあぶらあげが  
5. たぬきさんははねるのが  
6. まさ美ちゃんはおまんこが

7. そうさんはバナナが  
8. バンダさんはささのが  
9. けんちゃんはいすかきーが

スキップスキップ スキップスキップ

|               | 活 動 場 面  | 保育者のかかわり方   | 活 動 の 特 色<br>(対人関係・音楽特性)  |
|---------------|--|---|---|
| ①<br>11月5日(月) | <p>○保育者の手作りのペープサートを見ながら、保育者の歌を聞く。（歌詞に合わせて、表にかえるの絵・裏に雨の絵。表に小鳥の絵・裏にうたっている絵などが、描かれている。）</p> <p>○歌詞の覚えられない幼児も、口をパクパクさせてうたい、⑩の「ラララ～」の部分からは、大きな声で先生に合わせて、うたいます。</p>  | <p>○歌詞を覚えやすくするため、ペープサートの表と裏に絵を書き、わかりやすくしておく。</p> <p>○⑩の部分から全員でうたえるよう、ピアノの伴奏のテンポを少しずつおとす。</p>  | <p>○同じ物（ペープサート）を一緒に見たり、歌を一緒にうたうことによる、物媒介の対人外接的つながりの成立。（音楽状況における共通基盤性がみられる）</p> <p>○⑩から大きな声で一緒にうたうことにより、共感と一体感の促進性も成立。</p>   |
| ②<br>11月8日(木) | <p>○ペープサートを見ながらではあるが、2回目のため、歌詞を良く覚えていて、皆で元気よくうたう。</p> <p>○歌の途中で、①が「かえるさんは、何がすきだった？」の問いに対し、幼児たちは、すぐに「雨がすき」と答えがかえる。</p> <p>○二番目の歌詞に出てくる動物の好きなものを、幼児たちにあげさせ、皆でうたう。</p> <p>○身体を曲に合わせて動かす幼児や、頭でリズムを取る幼児の姿が見られる。</p> <p>○ペープサートの置いてあるテーブルの前まで出てきている4人の幼児・一人一人に ①「Yくんは何がすき？」 ②「なぞなぞ」 ③「Sくんは、何がすき？」 ④「ゲームボーイ」 ⑤「Mちゃんは、何がすき？」 ⑥「なぞなぞ」 ⑦「Hちゃんは、何がすき？」 ⑧「サリーちゃん」と、やりとりをして、4人の名前とすきなものをつなげてみて、全員で替え歌にしようたう。</p> <p>○⑩のメロディー「ラララ～」からは全員で歌い、清水と赤井で手拍子を入れると、幼児たちも、途中から参加し、手拍子を入れる。</p> <p>○あと、8人ぐらいに、すきなものを、言わせて、全員で歌にしてつなげる。</p> | <p>○歌詞を思い出すよう、ペープサートを袋の中から取り出して見せながら、ゆっくりうたう。</p> <p>○歌の合間に、幼児たちに問いかけをして、うたいやすい含囲気をつくる。</p> <p>○出てくる動物の好きなものを、幼児たちに想像させ、歌に取り入れる。</p> <p>○曲のリズムに合わせて、①の持っているペープサートを動かし、幼児をリズムの動きに誘い込む。</p> <p>○4人の幼児が、すきなものを皆の前で発表しやすいよう、雰囲気作りをし、一人一人に問いかけをする。</p> <p>○手拍子で参加するよう誘い込む。また、手拍子が入りやすいよう、ピアノでリズムをはっきり弾く。</p> | <p>○ペープサートを見ることにより、歌のイメージが広がり、歌詞が覚えやすくなる。</p> <p>○先生と幼児の間にやりとりがあり接在的かかわりが見られる。</p> <p>○好きなものについての応答は、幼児集団の自発性を高め、色々な答えがかえる。</p> <p>○歌に慣れてくると、余裕が生まれイメージも広がり、隣り合う者同志の音楽状況における共鳴共振が生まれ、音楽状況での集団活動が充実する。（共感と一体感の促進性）</p> <p>○人の前で発表することにより、個が目立ち、音楽状況における集団の構造化促進性が成立する。</p> <p>○人前に出て発表する側と、手拍子をして参加する側の役割分担。（統合する舞台性が成立）</p> <p>○集団内の個の自発性も高まり、自己表現も活発化してくるのがみられる。</p> |
|               | <p>○前回、前に出てすきなものを発表しなかった幼児に声をかける。すきな食べ物、すきな物・すきなことなど発表</p>   | <p>○発表ができない幼児に言葉かけを多くし、言いやすい環境を設定する。</p>  | <p>○何回か同じ歌をうたう活動を積み重ねるうちに、集団の中で部分的に独自の自己を表</p>  |

|   |  |   |  |
|---|--|---|--|
| ③ | <p>する。</p> <p>○4人ずつ前に出る時、一人あまる場合、幼児たちが考えて創った替え歌をうたう。<br/>(例「透明人間は、透明のリンゴがすきですきでスキップ」)</p> <p>○お帰りの時、この曲を歌いながら、電車になってつながり、玄関ホールへ移動し、帰ようになる。</p> | <p>○幼児側からの自発的表現発表をとり入れるようにする。</p> <p>○よく親しんでいるこの曲を使い、つながることにより、スキンシップを楽しめるよう配慮。</p> | <p>現することも全員ができるようになる。</p> <p>○個々の好きなものをつなげた替え歌により、独自性と共通基盤性を共に集める音楽状況が創造される。</p> |
|---|--|---|--|

ふじ組(5才児) 28名(1990年度) 保育者:阿部みゆき ピアノ伴奏:清水玲子 参加観察者:赤井美智子

|               | 活 動 場 面  | 保育者のかかわり方  | 活 動 の 特 色<br>(対人関係、音楽特性)  |
|---------------|--|--|---|
| ①<br>11月2日(金) | <p>○今月の歌として、保育者がうたってきかせる。</p> <p>○立ちあがってうたうと、自然に曲に合わせて幼児からスキップの動きが見られ、全員でスキップやギャロップをして動いてみる。</p>   | <p>○歌の導入は、なぞなぞをして、幼児たちと考え、歌詞にむすびつける。</p> <p>○幼児の間から、体を使った動きが自然に出てくるよう、そっと見守る。</p>  | <p>○①の歌を全員で聞くことにより共通基盤の成立がある。</p> <p>○リズムカルな楽しい音楽状況において、感覚運動レベルの共感と人と共にあることの楽しさにひたる一体感がみられる。</p>  |
| ②<br>11月5日(月) | <p>○この曲をうたうのが、2回目なので、一回通してうたう。そして、歌詞の中に出てくる動物の好きなものを、色々に変化させてうたう。(例:「かえるさんははねるのが〜」「かえるさんは、ゲロゲロなくのが〜」など)</p> <p>○①に指名された幼児(4人ずつ)が、前に出てきて各自の好きなものを皆の前で発表する。(例:うさぎ、ケーキ、なわとび、など)</p> <p>○①「4人のお名前と好きなものをつなげて、うたってみよう。みんな覚えているかな?」の問いかけで、歌いはじめる。ほとんどの幼児が、正確に覚えていて、すぐにうたうことができる。</p> <p>○①「歌いながら歩いてみましょう。」との話しかけで、②のメロディーの部分は歩く。③のメロディーからは、自然にスキップやギャロップで動きはじめる、手をつなぐ幼児もでてくる。</p> <p>○全員で部屋中を動きまわったあと、①「胸がドキドキしているね。お友だちの胸、さわってみて。」の言葉で、全員がくっつき、重なり合って確かめあう。</p> | <p>○ウォーミングアップの後、幼児の中から出てきた言葉を、ひろい、全員で歌詞にむすびつける。歌のリズムは、くずさぬよう、①と幼児の言葉のやりとりの間、ピアノで符点のリズムをきざむ。</p> <p>○発表しやすいように、個に即した援助を、言葉かけでする。</p> <p>○次々に、個に焦点をあて、幼児からの自発的に表現を促進させる。</p> <p>○スキップやギャロップの動きを取り入れるため、ピアノは、③の部分の符点のリズムの弾き方を、工夫し、強調する。</p> <p>○動きまわったあと、休息をとり、気持ちを静め、次に、スキンシップの効果をもたらすよう、言葉かけをする。ピアノは、バックミュージックとしてテンポと音量をおとして弾く。</p> | <p>○ウォーミングアップをすることにより、歌の共通基盤性が成立し、共感と一体感ともなう。</p> <p>○集団における個の焦点化がみられ、また自己表現も、活発になり、充実してくる。</p> <p>○共通課題における共有体験を通して、他の人を認識し、さらに、音楽状況にむすびつける過程がみられる。</p> <p>○音楽に合わせて、運動する一体感の高揚がみられる。</p> <p>○身体接触を自然に展開し、リズムカルな音楽状況から少しづつ、ゆったりとした音楽状況へ移行し、その中で同じにふるまうことを楽しむ。</p> |

|     |   |  |  |
|-----|---|--|--|
|     |   |  | ○対人関係の幅が拡大される。   |
|     | <p>○歌をうたいながら、リズムカルに、自分の体や、友だちの体をたたく。<br/>(例：頭—頭—肩—肩—ひざ—ひざ—手拍子 おしり—背中—ひざ—手拍子など)</p>  | ○自然に、友だちにタッチして楽しむような段階の設定をする。  | ○音楽にのって、自然にタッチを楽しみ、一体感の促進がみられる。                                  |
|     | <p>○初めは、二人組や三人組のグループであったが、次第にいくつかの列ができてくる。⑩の「頭はそっとね。」「お風呂の背中流してみたいに、前の人をタッチしましょう。」の言葉かけで、向きを変えて、違う人の違う所をタッチする。赤井、中に入り、一番後ろにあたるさわれない幼児の背中をさわる。</p> | ○タッチする相手を個定せず、他の人にもタッチできるよう、自然な拡大へと、促進する。                                      | ○リズムカルな音楽状況において、自然に、タッチする人の範囲が、拡大する。                             |
| ⑧   | <p>○二回目と同じように、4人ずつ前に出て好きなものを言う。(例：サンタ・J君、おえかき、おりがみ など)</p>  | ○次々に、個に焦点をあてて、自由に表現させる。  | ○集団での焦点化された個への認知を深化し、促進する。                                       |
| 11  | <p>○次第に皆で「～ちゃんは、何が好き？」と節のついた掛け声で尋ねるやりとりを、くり返し楽しむ。</p>   | ○幼児のつくった節まわしを取り入れる。その時のピアノ伴奏は、その節まわしを手助けするよう、リズムをきざむ。                          | ○やりとりのルール化により、表現が活発化。接在的にかかわりが、みられる。                             |
| 19  | <p>○赤井 「A先生は、何が好き？」の問いかけに、幼児たちは、「ピアノ」「りんご」「皆がすき！」と答えるが、かえる。</p>   |  |  |
| 日   | <p>○⑩の部分のメロディー「ララ～」のところは、前に出てきた4人と⑩が輪になり回る。見ている幼児たちは、手拍子をしながらうたう。</p>   | ○4人では、まわりにくいので、⑩も幼児の輪に加わる。   | ○踊る役割と、うたう役割の分化がみられる。  |
| (月) | <p>○隣り同志で、肩を組み、リズムに合わせて左右に揺れてうたう。</p>   | ○同じ動作で盛りあげる。清水もピアノ弾きながら、幼児たちと同じように、体を左右にゆらして、リズムをとる。                           | ○仲間意識の発展がみられ、音楽的特性の共通の役割課題を媒介とする接在的にかかわりの促進性がみられる。               |
|     | <p>○広い場所に移動し、全員で大きな輪をつくり、⑨のメロディーの部分では、隣りの人へのタッチを楽しみ、⑩のメロディーの部分では、好きなところへスキップをして楽しみながら、うたって踊る姿がみられる。</p>   | ○運動空間を広げて、自由にふるまえるよう配慮する。また、輪になり、この曲⑨と⑩のメロディーの特性を生かし、自然な表現ができるよう、リズムや音量に気をつける。 | ○運動空間を拡げることにより、対人関係の可能性が拡大する。この曲の特徴を生かすことにより、ゲームなどの多様な活動要素がみられる。 |
|     | <p>○J君が先頭になり、スキップ電車で、一列につながり、せまいところなどをくぐりぬけながら動く。スキップから、走る動作に変化する。</p>  | ○Jの出した方向性を尊重し、柔軟に対応する。スキップのリズムから、ピアノ伴奏も、走るリズムへ変更する。                            | ○Jの創造する場面設定に即した劇場面が成立する。   |
|     | <p>○疲れたので、夜の場面をつくり、床に全員が寝ころぶ。(イビキをかく幼児の姿もみられる。)</p>   | ○場面に即した伴奏をし、鎮静効果のある曲を選んで弾く。(眠りの曲)  | ○同一場面を共有することにより、集団凝集体験をする。                                       |

## 〔実践例 B〕

本研究（赤井、金勝）は、新座市福祉事務所主催の3歳児母子小集団活動「でんでん虫の家」に保育者養成者の役割を担って参加し、共同の研究実践者としての実践の機会をも与えられてきた。

この活動には、市の家庭児童相談室での相談、および3歳児健診の結果で、集団遊びを通して、よりよい発達を促すために母子参加の集団遊び経験が特に必要と思われる親子が参加している（月に3回、2時間の活動）

常勤のでんでん虫の保育者スタッフ3人と平均10組位の母子が構成メンバーとして参加するが、ここでは本研究者が特に実践者として参加した音楽状況活動を考察・分析対象とする。

### ① 1991年11月20日

使用曲 「ひらいた、ひらいた」 による音楽状況活動

人のかかわりの促進の第一歩として、人（友達）を意識し注目する、目を合わせること、を大きなねらいの一つとする。手をつないだりまわったり等の同じ行動をとることから、メンバーを意識して皆と一緒に同じことをして楽しいという喜びを体験することを、めざす。（ℓ1……金勝 ℓ2……でんでん虫スタッフ ℓ3……赤井）

臨牀的ねらいの設定されている集団活動を促進する保育者はリーダー機能を次のような3つに分けて意識し、場面に応じて、それぞれの機能を分担しながらの力動的な機能連担によるチーム指導をめざしている。

（ℓ1）方向性功能……集団活動の方向を明らかにする機能、主として物（課題）との関係発展を促進する。

（ℓ2）関係性功能……集団活動において、人との関係、グループとの関係、場面との関係などさまざまな関係の発展を促進する機能、主として、人との関係発展を促進する。

（ℓ3）内容性功能……集団活動における幼児の自発活動を促進し、内容をつくってゆく機能、主として自己との関係発展を促進する。

| 段 階  | 活 動 場 面  | T の か か わ り 方   | 活動の特色と構造   |
|--|--|---|--|
| 導入期：<br>スムーズ入室<br>ができるよう<br>汽車になっ<br>てくる。<br>走りながら自<br>然に輪を作<br>る。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○幼児たちは汽車の列に参加しながら、楽しそうに入ってくる。</li> <li>○汽車になっていた幼児たちは、輪の中心をむき①の行動を見て手をつなぐ幼児と、まだ手をつながない幼児とがいる。</li> <li>○右へ回ったり、左へ回ったり、小さくなったり大きくなったりして、一方向へ皆で動くことを楽しむ。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○シュッシュポッポとかけ声をかけながら全員が入室したかを配慮する。</li> <li>○「まーるくなーれ、おーきくなーれ」に何回も声をかけて、となり同志の子どもと手をつないでみせる。</li> <li>○丸くなり輪が大きく開いたのを見とどけて、こんどは「右へまわれー、左へまわれー」と声をかける。</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>○活動場所の移動そのものが、一つの活動単位となり、次の活動への導入となる。</li> <li>○単純な課題（まるくなりながら歩く、手をつなぐ）の成立。</li> <li>○同方向へ手をつないで移動する順序の成立。共に課題をこなすことによる共感、対人関係の発展。</li> </ul>                 |
| 展開期：<br>集団課題の明<br>確化。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○小さくなーれ、のかけ声で輪の中心へ向かって行く。お互いの顔をより近くで見つめ合う。体がふれあい、ぎゅうぎゅう詰りになった状態で、身体がふれあったり顔を見合って楽しむ体験をする。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○「ちーさくなーれ、ちーさくなーれ」と声をかけ、皆がとても喜んで小さくなっているところで、「お顔見えたかな？A君はどこにいるかな、Bちゃんはどこかな」などと声をかけながら互いを意識しあえるように声をかける。まだ手をつながない幼児には、今ここでの気持を認め、輪の切れた所は外側からおおうようにして、①が物理的につないで動く。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○輪の中心へ手をつないだまま進み、集合することによる物理的な接近が、身体的な相互接触をもたらすと共に、相互の心理的距離を縮める。</li> <li>○幼児が相互に他者を意識し、対人認知を発展させる活動。円を形づくりつつ、手をつながない幼児にはTが媒介になり個別の活動を集団に自然に位置づける。</li> </ul> |



|                       |  |   |  |
|-----------------------|--|---|--|
| 偶然におきた展開を活動の発展に結びつける。 | <p>○中心にA男の弟の乳児が座っていたが、皆に驚いて泣き出す。泣く乳児の頭をなでる幼児、また、「バーッ」と言ってあやす幼児、全く関心を示さない幼児など、がいる。</p> <p>○輪がまた大きくなったところで、手をいっぱいにして離さない幼児、手をつながない幼児など、それぞれの行動で自分を表わしている。いつも活発なA子は喜々として手をつないで元気に活動している。少々乱暴すぎて手が離れそうになるが、それがまた楽しいのかさらに元気に活動する。</p> | <p>○泣いている乳児を指さして、「あっ泣いているね。どうしよう。」と皆に問いかけ、「大丈夫よ。」と声をかけることを促してみる。</p> <p>○輪を大きくし、大きくなったところで「みんなのお顔が遠くになったけど、まだ見えるかなー」とよびかける。</p> | <p>○輪の中心に座っていた乳児が焦点となり、乳児へのさまざまな対人関係のかかわりが生まれ、集団が凝集する。</p> <p>○手を強く引っ張り合いながら大きな輪を形作るといふ、単純だが少々緊張感のある課題を共に担うことで集団のつながり、皆と一緒にして楽しいことなどの意識が育つ。</p> <p>○単純な段階を追った課題の変化により、対人関係の自然な発展が無理なくもたらされ、幼児の自発性の発展、情緒の高揚などがはっきりと、とらえられる。</p> <p>円になっての活動に、出たり入ったりして、外接的参加をする幼児もいる。</p> |
| C男独自の段階として集団に位置づける。   | 手をつながないC男が輪の外を走りまわる。母親があとを追っている。   | C男の表情、動きに注意しつつ、参加している幼児達と活動を続ける。一瞬の、対人関係の焦点化をねらう。   |  |

#### 使用曲 「おうまのおやこ」 による音楽状況活動

よく知られている童謡を使い、すぐに覚えらる単純な動きで母子共に楽しめる活動を設定した。情緒、行為、認識面で様々なかかわり方の特色を持つ幼児の集団であるため、一回動いてみて活動枠がすぐ理解でき、安心してどの幼児も活動できるような安定感のある動きの活動を楽しみ、母子関係、集団関係が発展（外接的かかわり方から内接的かかわり方へ）することをねらいとする。（ℓ1……金勝 ℓ2……でんでん虫スタッフ ℓ3……赤井）

| 段 階                                    | 活 動 場 面  | T の か か わ り 方  | 活動の特色と構造   |
|--|--|--|--|
| 導入期：<br>オルガンの音に注意がむくよう、歌いながら弾き始める。     | ○オルガンの方へ向いて皆で歌をうたう。この歌を知っている幼児はとて嬉しそうにうたっている。母親もよく知っている歌だとみえて、幼児と一緒にゆれてうたっている母子など、それぞれ楽しそうに活動参加している。 | ○歌をよく思い出せるよう、数回続けてうたう。「お母さんも楽しそうにうたいましょう」と声をかける。二番も続けてうたう。   | ○親しみのある曲に触れ、ただちに音楽状況による共通基盤が成立。<br>親しみのあるのんびりした曲に余裕をもってかかわることができ、音楽への接在的かかわり、内接的かかわりが発展。 |
| C子の強い反応に①も一生懸命応えようと共に、他の幼児も誘いこむようにうたう。 | ○C子：大きく口を開け手拍子を打ち、身体をゆすってとても楽しそうにうたっている。だが、声は出ていない。しかし、歌が大好きな様子がうかがわれる。                              | ○この時、一度も声を聞いたことがないC子が、声はないが大きな口をあけて一生懸命うたい出した。<br>この時の母親に注目したが、母親の方はあまりうたいたい気持ちが見られず、母親の顔を見上げて一緒にうたおうとするC子とは対照的であった。しかしC子の歌に対する強い興味の発見に今後大きく期待を持つことができる。 | ○C子については音楽とのかかわりによるC子の自己関係の変化の大きな可能性を発見すると共に、母親とC子の気持ちの通わせ方を外接から内接へ伸ばすTにおける指導課題の必要を認識する。 |

|   |  |  |   |
|---|--|--|---|
| <p>展開期：<br/>同じ曲で動きを変化させることによる発展課題の成立。</p>   | <p>○次に母子が前後に手をつなぎ音楽と歌に合わせて、歩く、とぶ、止まるという三つの動作で動く。最初は母親が先頭になって動いているが、どの幼児達もとても楽しそうに音楽に合わせて活動している。</p> <p>○二番では止まって親子で顔を見合わせる場面を作る。この時、母親はしっかりと子どもの目を見る事が大切である。母親がしっかりと子どもの目をとらえている親子は、この曲の動きで一ばんここが楽しいという事が認識できる。</p> <p>A子：手をつないで嬉しそうに活動しているが母親は他の母親と話したり、別の方を見ていたりする。顔を合わすところで、自分の子どもを見てはいるが、視線をきちっと合わすようには見ていない。</p> <p>B男：ふだんより多動が見られるが、手をつないで一度だけやったら、他の場所へ行って座りこみ、別の遊びを始める。時々チラチラと皆のする事を横目で見ることに参加。他の子どもは、それなりに母子関係をよく保ちながら、積極的な参加活動が見られる。</p> | <p>○「お母さんの顔が見えたらニコッとしましょう。」と声をかける。</p> <p>○「かわいいお子さんが見えたら、わらってあげましょう。」と母へのかかわりを強め、声をかける。</p> <p>無理強いはいしないが、そばで声を出してみたり活動をアピールしたり、こちらへ向くようしむけてみる。</p>   | <p>○音楽情况を楽しみつつ、母には幼児にとって動きやすいように幼児に配慮しつつ、リードしてふるまう（内接的 かかわり方）ことが課題となるが、いろいろな段階の母親のふるまい方がとらえられる。</p> <p>視線を母子でしっかり合わせ、気持を通わせあい、共感を高める活動段階の設定。</p> <p>ピタッとタイミングが合う母子のペアと、まだ難かしくなるとなく外接のまま活動の焦点がボヤけて流れてしまうペアと、さまざまな取り組みが見られる。</p> <p>母子での目新しい活動に興味を持てたらしく、一回参加できたことを大きな成果とする。B男は外接しつつ、活動集団を見ることによる参加の段階として、集団に位置づける。</p> |
| <p>発展期：<br/>充分活動が行なえていることを確かめ、役割交代を試みる。</p> | <p>○母子間の前後交代（先頭の交代）もスムーズに行き、子どももリードをとって母親をうまく導く事ができていた。</p> <p>大きな母親をうしろにしてのリードなので、一人で歩く時よりもさらに歩幅が小さくなる。また他のペアと、ぶつからない様に歩くことや、自分で行きたい方向を一瞬で選択することなど、幼児の能力を充分使いながら、単純な動きによる重要な活動である。</p> <p>自分が先頭でリードできた満足感を十分に味わい、楽しく終えることができた。</p>  | <p>○動きがよく受容されたのを確かめた上で、前後の交代の指示を出す。「こんどはお母さんが、こうまさんになりますよ。みんなは、お母さんうま、お父さんうまになって歩きましょう」とよびかける。</p> <p>子どもが先頭になった時は、さらにリズムや施律を強調して、オルガンを弾く。</p> <p>役割交代をして不安な顔をしている幼児がいないか注意しておく。幼児の表情からどの子も充分満足した事を知る。</p> | <p>○更に高度な活動課題を設定。役割交代は、こちらから提案する前に、自発的にしていたペアもあり、スムーズに行なわれた。新しい役割（お母さん、あるいはお父さん役）をになう事で、自発性、表現が高まる幼児の動きに即応したオルガンの演奏が音楽状況を一層盛り上げる。</p>   |

② 1992年2月26日

使用曲 「おんまはみんな」「むすんでひらいて（かえうた）」 其他による音楽状況活動

歩く音楽、走る音楽を身体で楽しむ集団活動、また季節にそった、春を感じさせる音楽にのって友達やお母さん達と動いてみることににより、自発性や表現を伸ばし、行動の可能性を拡げる。

(ℓ1……金勝 ℓ2……でんでん虫スタッフ ℓ3……赤井)

| 段 階                                      | 活 動 場 面  | T の か か わ り 方   | 活動の特色と構造   |
|--|--|---|--|
| 導入期：<br>いつもとちがった雰囲気を感じとれるよう気を配る。         | <p>○他の部屋からの移動でいつものように、汽車になって入って来たが、いつもとちがって、すでにオルガンの音で音楽が流れている。入室して来た時の幼児達の表情の中にその事が読みとれる。</p> <p>かけ足の音楽が聞こえているので、かけ足をしながら笑顔で嬉しさが身体中から感じられる幼児も見られる。</p> <p>歩く音楽の変化に気づき、皆でドンドンと足音をたてながら楽しそうに歩く。</p>               | <p>○オルガンで、走る・歩くの音楽を幼児によく解かるよう、幼児の動きに合わせながら弾きわけ。</p> <p>楽しそうに弾く。</p>   | <p>○活動場所の移動そのものが一つの活動単位になり、次の活動への導入となる。</p> <p>音楽状況に内在し、好きなように身体を動かしてみようことを誘う。</p> <p>単純な課題枠なので、皆で活発に動くことを楽しむ。</p> <p>音楽と幼児が内接的に かかわり、一人の動きが集団に広がって一緒に同じ動きを楽しむ。</p>                                  |
| 展開期：<br>発達課題の設定。                         | <p>○走る、歩くを数回くり返したところで、皆の知っている「ちょうちょ」の音楽が聞こえてきて、今度はちょうちょになって部屋をまわりだんだん丸く輪になって行く。</p> <p>①のよびかけで「ひらいた、ひらいた」を2-3回やって楽しむ。</p> <p>○B男：いつものように多動であるので、部屋の中を皆の倍ほどの速さでとびまわる。他の幼児と強くぶつかったり押したりする。オルガンに非常に興味をもち、弾きたがる。</p> | <p>○「何か別の音楽が聞こえて来たわね。何だろう？」と注意を促し、ちょうちょである事を気付かせる。どの幼児もリズムにのって上手にできていたのを見届けておく。</p> <p>「れんげ畑にちょうちょさんが飛んで来ましたよ。れんげ畑でひらいた、ひらいたをやってみましょう。」と呼びかける。</p> <p>○①のひかない鍵盤をたたいて楽しんでいるので、そのままにしておく。</p> | <p>○身体を動かす、自己身体的役割ばかりでなく、ちょうちょになるという社会地位的役割を担う事が集団課題となる。</p> <p>れんげ畑のちょうちょになってふるまう、という場面設定が、最初は充分に理解できない幼児もいるが、皆とくり返し動くことを楽しむうちに、だんだん役割課題の理解を深めて行ける。</p> <p>○B男は①の横で何分間かオルガンに触れ、集団を見ることによる参加をする。</p> |
| 変換期：<br>S先生の偶然の展開で「おんまはみんな」であそんでみる。      | <p>○こんどは母子二人のペアになり、座って足をのばした母親の上に幼児を座らせ、「おんまはみんな」の歌に合わせ、ひざの上げ下げをして乗せた幼児をリズムに合わせてゆする。</p> <p>3回くり返したところで幼児をとなりの母親へ移動し、同じようにして遊ぶ。</p> <p>A男、B子：いやがって自分の母親のそばから離れないが、他の幼児が乗っているので、そばで見ています。</p>                     | <p>○練習を重ねてきた「おんまはみんな」を歌いながら、親子で楽しめるよう展開する。</p> <p>「となりのおうまさんの乗りごちはどんなかな。」と言って、自然に抵抗のないようとなりの母親への移動を行なう。</p> <p>3人交代したところで、それぞれの自分の母親のもとに幼児がもどるようにする。</p>                                    | <p>○新しい母子ペア活動の設定。</p> <p>何回か遊んだことのある活動なので、余裕を持って母子で楽しむ。発展課題としてパートナーチェンジを行なうが、まだ他の母親とのペア活動をいやがる幼児には強要しない。</p> <p>弟や妹と一緒に母さんと三人組を作るところもある。</p>   |
| 偶然の展開から予定していた教材に入れないとの判断で、シーソーあそびに変えて遊ぶ。 | <p>充分に「おんまはみんな」で楽しんだあとに、母親の座って開いている両足の間に、幼児の両足を入れた状態で屈伸運動をシーソーあそびに見たてて遊んでみる。慣れてきたところで、そのまわりのリズムを利用して、「むすんでひらいて」のメロデ</p>  | <p>「ギットンバツタン、ギットンバツタン」とかけ声をかけ、柔軟体操をやるように深く、シーソーあそびをやる。「むすんでひらいて」のうたで「ギットン</p>   | <p>更に二番目の発展課題として、母子間の相互的にかかわりを促進する活動を設定。</p> <p>親しみのあるメロディーのかえうたで、相互に身体を大きく前後に倒すペア活動をする。</p> <p>母親には、子どもの動きに注目</p>   |

|   |  |   |
|---|--|---|
| <p>ィーを使ったかえうたにのって、シーソーあそびを続ける。</p> <p>「♪ その手をうえにー ♪」(今は「♪ すーこしやすみましょうー ♪」とかえうたにして)のところで、子どもの両手をギューッと引き、子どもは前へかがみ、母親は寝ているのに近いスタイルになる。引っぱられた子どもは前にべちゃんこになるようにひっぱられるのがとても楽しく、キャーキャーと笑いながら母親に引っぱられてる。</p> <p>この部分が特に楽しいので、何回も喜んで活動する。</p> | <p>「バツタン」をくり返すうたう。歌が、のばす部分にさしかかった時、「ギューッと引いてやすんでみましょう」と母親に呼びかける。</p> <p>2回目からは簡単な歌詞ですぐ覚えられるので皆で歌いながら楽しんで活動しているのがきこえ。</p> <p>幼児も母親も、一生懸命やっていると、汗ばんでくるのがわかる。汗ばんでくるぐらい力を入れて活動できるようになると、尚一層楽しくなってくるのが同われ、遊んでいるペアの母子相互関係を表情や行動を見ながら頭にとめておく。</p> | <p>子どもが大きく動けるように、補助する(内接的にかかわる)こと、動きのリズムにめりはりをつけ、子どものやりとりのタイミングをうまく合わせられるようになることが期待される。</p> <p>なかなか母子間のやりとりがうまく楽しめないペアには、①が補助的にかかわり、めりはりをつけ、母子がしっかり出会う体験が成立するようにする。</p> |
|---|--|---|

## 〔5〕 音楽状況における保育者のかかわり方の基本

○音楽状況は、楽器、レコードや音楽テープをことさら使わなくても成立しえるものであり、幼児の充実した遊びの中に、幼児と幼児、幼児と保育者の関係における声かけや、歌、音づくり、身体のリズムなどにより気持ちを通わせ合う表現活動の中にも、自ずから音楽状況が成立・発展しえることを認識し、活用する。

○主として、音楽状況により、どういう関係の発展をもたらすかという視点を持ち、〔1〕で述べた音楽の機能的特性の中のいくつかが幼児の発達に応じて十分に展開しえる場合の設定を心がける。

○音楽状況では、言語的やりとりや役割分担、ルールの共有などがまだ難しい発達段階にある幼ない幼児にとっても、音楽を媒介として人とのつながりの喜びや、人との出会い、単純なやりとりによる充実体験を積むことが可能となる。

このような初期的な対人関係を形成促進するために、音楽を媒介にした無理のない、楽しい活動を用意し、自然に幼児が、個々の表現・行為の可能性を拓げる体験を数多く積むことが大切である。

○音楽状況には、リズムやテンポのような枠や音楽に合わせた歌や身体表現を“皆で同じにしましょう”という活動枠が存在することが比較的多い。保育者はその枠を柔軟に設定すべきであり、幼児集団が一斉に同じ動き、

表現をすることを、幼児に強いるようなかかわり方があるてはならない。

幼児の音楽状況に内在する喜びや楽しさを味わいつつ、幼児の即興的な自発性・創造性の発揮が生かされ、幼児が自在にふるまえる余白があり、保育者と幼児のかかわりによって変化・発展し、保育者も幼児に即して変化しえるような力働的な集団活動がめざされる。

○臨牀的な活動において、音楽状況は不可欠な要素の一つであり、“今、ここで”成立する音楽状況でのどの幼児のどのようなふるまい方も、多様なかかわり方として尊重し、状況の発展に力働的に生かされるように、個と集団の媒介的役割を保育臨床者がになうことが必要となる。

音楽状況における幼児の自発活動・表現活動の発展を尊重し、そこに保育者の側に成立する臨床課題を交差させていける理論と臨床技法の開発が期待される。

## <引用文献>

- ① 松村康平「保育実践の現状と『発達』に関する考察」(「子どもの発達と福祉」 玉川大学出版部)
- ② 佐藤幸子「関係音楽論試論」(「関係学研究」第8巻 関係学編集委員会 関係学会事務局)
- ③ 赤井美智子「共に育つ」5章 東京教科書出版

## <研究協力者>

附属幼稚園教諭(高橋玲子, 阿部みゆき), こぶた会 会員, 「でんでん虫の家」指導者チーム